

修士論文（要旨）

2012年7月

初級日本語授業で使用する絵の要素の分析
—学習者の視点から—

指導 齋藤伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

209J3009

金子広幸

目次

第1章 序論	1
1.1 研究の背景	1
1.2 先行研究	2
1.3 研究の目的と意義	9
第2章 調査概要	10
2.1 調査の流れと目的	10
2.2 予備調査	10
2.2.1 予備調査1の概要	10
2.2.2 予備調査2の概要	15
2.2.3 予備調査1、2の結果と本調査の位置づけ	18
2.3 本調査の概要	18
2.3.1 本調査の概要	18
2.3.2 調査対象	19
2.3.3 調査手順	19
2.3.4 分析方法	27
第3章 本調査の結果と分析	30
3.1 本調査1、および3の結果	30
3.1.1 各「絵の要素」についての結果	30
3.1.2 8つの「絵の要素」全体の結果	34
3.1.3 本調査1と本調査3のデータの増減	35
3.1.4 本調査1、および3の結果とその分析	35
3.2 本調査2の結果	38
3.2.1 文字化の方針	38
3.2.2 「絵の要素」＜サングラス＞についての分析	38
3.2.3 「絵の要素」＜吊りあがり眉＞＜上目遣い＞についての分析	40
3.2.4 受身の学習の仕上げ場面での分析	43
3.3 考察	45
第4章 結論および今後の課題	48
参考文献	
資料	
(資料1) 「絵の要素」基本資料	i
(資料2) 予備調査2の回答一覧	vii
(資料3) ガイダンス資料および本調査1、および3の質問紙	xv
(資料4) 本調査1、および3の回答一覧	xx
(資料5) クラスでの発言文字化資料 提出場面①②③	xxvii

第1章 序論

日本語の初級クラスでは絵が多用される。クラスでは、教科書、絵教材、または教授者自作の絵、および絵に含まれる「絵の要素」を、教授者は主観的な判断によって選択し使用している。

「絵の要素」とは小松（2000）の述べる「ひとつの意味のある単位で描かれている物体や象徴」をその定義とする。しかしこの「絵の要素」がどのような効果をもたらすかを考慮せず使用することは、異なる文化背景をもつ学習者に対応する方策としては不完全である。（「絵の要素」の具体例は本文図1の抜粋を参照）

本研究は、「絵の要素」の効果的な使用方法の模索を目的とした。まず学習者の絵に対する観察・認識を質的量的に把握して、学習者の「絵の要素」の解釈が、教授者の意図と比べた時どう異なるかを明らかにした。さらに、クラスでの絵や「絵の要素」の扱い方を観察し、教授者の言動が学習者の「絵の要素」の解釈にどのような影響を与えたかを探った。

第2章 調査概要

予備調査では、代表的な初級教材に含まれる「絵の要素」を把握し、学習者、母語話者などのグループに「絵の要素」についての解釈を問い、調査の方向性を明らかにした。そののちクラス前の本調査1、およびクラス後の本調査3で質問紙調査を行い、クラスをはさんで、学習者の「絵の要素」についての解釈にどのような差異が生じたか把握した。そして、その原因をクラスの教授者の言動に求め、本調査2でクラスの撮影の結果得られた文字化資料をもとに実態調査を行った。

第3章 本調査の結果と分析・考察

本調査1、および3で得られた結果のうち、特徴の見られた3つの「絵の要素」を選択した。うち<サングラス>と呼ばれる「絵の要素」については、教授者の意図通りに解釈した学習者の数がクラス後に大幅に増えた（本文グラフ4A,4Bの抜粋参照）。これにより、教授者がクラス活動中に印象的な提示の方法をとると、学習者の解釈に大きく影響を与えることが分かった。

一方、<吊りあがり眉><上目遣い>については、教授者の意図通りの解釈をした学習者の数は、クラス後のほうが減少した。ここでは、学習者は「絵の要素」を使用せずに、場面状況を把握していたと考えられる。（本文グラフ8A,8B,および9A,9Bの抜粋参照）

本調査群を通して、個々の「絵の要素」の解釈は、絵全体の構成の把握の前提になっているとは言えず、「絵の要素」の解釈を経ずして、絵全体から場面状況の把握をしている場合があることが分かった。

さらに、教授者が絵を使用するときには、絵にさまざまな情報を添えていたと考えられる。絵全体に文脈を与えて、学習者が大きな視点で見るように促したり、画中の「絵の要素」について、詳細な情報を加味して、学習者が小さな視点から見るように促したりして、あらゆるレベルの情報を添える可能性があると考えられる。

第4章 結論および今後の課題

本研究においては、教授者の言動が解釈に影響を与えるという結果が出たが、これ以外に何が影響を与えるかを探ることは重要な課題となる。また、本研究では、解釈の理由を明らかにすることはできなかったが、絵の観察者本人に語ってもらうことで、解釈の根拠が一部得られると考えられる。

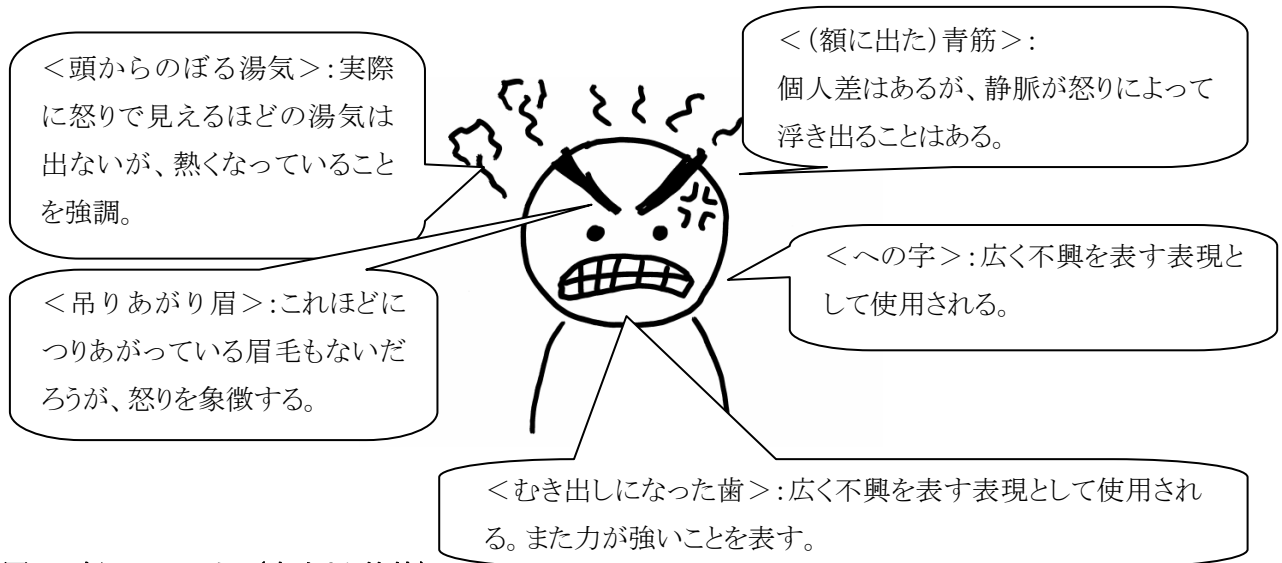
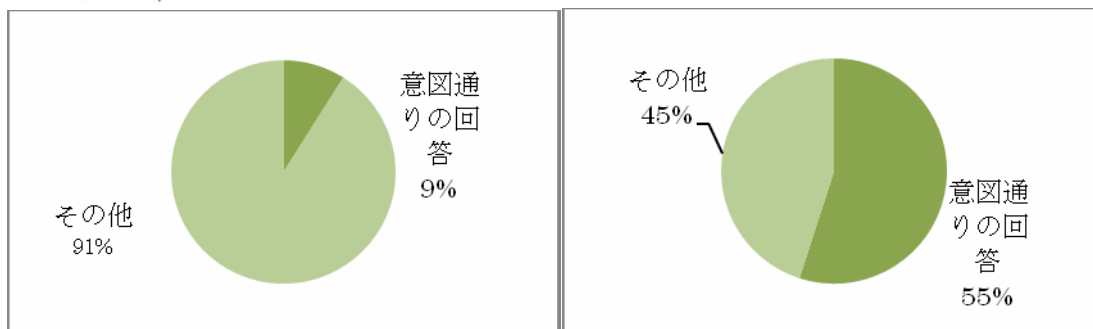


図 1 怒っている人 (本文より抜粋)

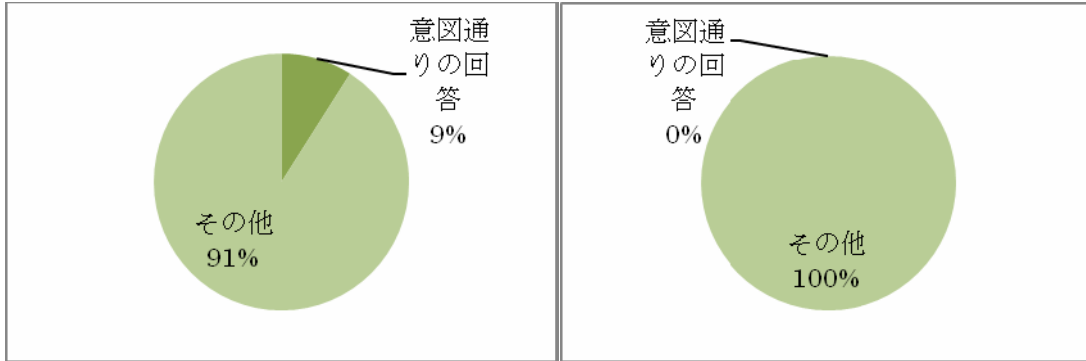
「絵の要素」 <サングラス>



グラフ 4A 本調査1<サングラス>
(本文より抜粋)

グラフ 4B 本調査3<サングラス>

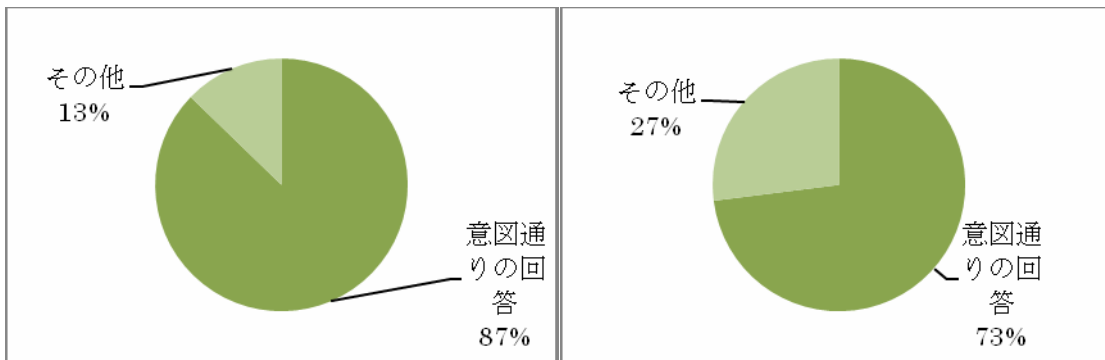
「絵の要素」 <上目遣い>



グラフ 8A 本調査1<上目遣い>
(本文より抜粋)

グラフ 8B 本調査3<上目遣い>

「絵の要素」 <吊りあがり眉>



グラフ 9A 本調査1<吊りあがり眉>
(本文より抜粋)

グラフ 9B 本調査3<吊りあがり眉>

参考文献

[邦文]

- 市川保子、本間倫子(1990)「取り立て助詞「ハ」の導入のための一試案」ーイラストと漫画で「ハ」を教えるー『日本語教育』70号
- 岩上喜実(2008)『○△□ではじめるお絵かき事典』
- 奥泉香(2006)「「見ること」の学習を、言語教育に組み込む可能性の検討」『リテラシー』(2), 37-50, 2006
- 井上賢治、西澤朋子(1994)「絵を用いた共感性測定の試み」『東京大学教育学部紀要』33
- 宇田川のり子(2008)「やさしいイラストの描き方、教えます!」『月刊日本語』9月号
- 海保博之(2000)『瞬間情報処理の心理学——人が二秒間でできること——』福村出版
- 川口義一(2007)「「わかりやすさ」の実態ー初級クラスの授業実践における技術的側面」『早稲田大学日本語教育研究センター紀要』20
- 木村洋二・増田のぞみ(2001)「マンガにおける荷重表現ーページの「めぐり効果」とマンガの「文法」をめぐって」『社会学部紀要』32 関西大学 205-251
- 権敬珉(2005)「日本語教材の漫画とイラストに見られる非言語行動についての比較考察」ー日本・韓国・中国(及び台湾)を対象としてー『日本語教育』124号 63-68
- 国見久美子、織田倫子、山口周子(1990)「初級日本語絵教材の語句リスト」『今田滋子先生退官記念論文集ー日本語教育の交差点で』
- 小松幸廣(2000)「日本語教材作成支援イラストデータベースの開発」『教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集』
- 杉村泰(2005)「イメージで教える日本語の格助詞と構文」『言語文化叢書』2005 名古屋大学
- 鈴木晶夫(1996)「感情尺度としての文字顔に関する試験的研究」『早稲田大学人間科学研究』1996
- 田辺理子(2005)「事例研究 絵と絵本を用いた対話による日本語指導の試み」桜美林大学大学院国際学研究科言語教育専攻 修士論文
- 永保澄雄(1995)『絵を描いて教える日本語』創拓社
- 夏目房之助(1997)『マンガはなぜ面白いのか その表現と文法』84p-85p,87p,89p,
- 松川順子(2004)「画像認知と知識の役割」『金沢大学文学部論集 行動科学 哲学篇』24:1-14
- 横井和子(2004-2005)「やさしい絵カードの描き方」『月刊日本語』4月号から3月号
- 横田隆志(2008)「日本語初級教材のイラストに見られる「視点」の分析」『北陸大学紀要』第32号 217~224
- 吉岡秀幸、吉岡珠江(1997)「絵教材を使ってみよう作ってみよう」『月刊日本語』5月号
- 渡邊時夫、矢亀尋美(2001)「「実践的コミュニケーション能力ー養成のためのピクチャーカード活用法」ー実践的なインタラクティブな表現活動を目指してー」『信州大学教育学部紀要』No.103
- 〔「絵の要素」の出典〕
- 飯島ひとみ 芝薫 高本佳代子 村上まさみ(2003)『みんなの日本語初級1 導入・練習イラスト集』
- スリーエーネットワーク(2000)『みんなの日本語 初級1 携帯用絵教材』
- スリーエーネットワーク(2000)『みんなの日本語 初級2 携帯用絵教材』
- スリーエーネットワーク(2000)『みんなの日本語 初級1 練習C・会話イラストシート』